

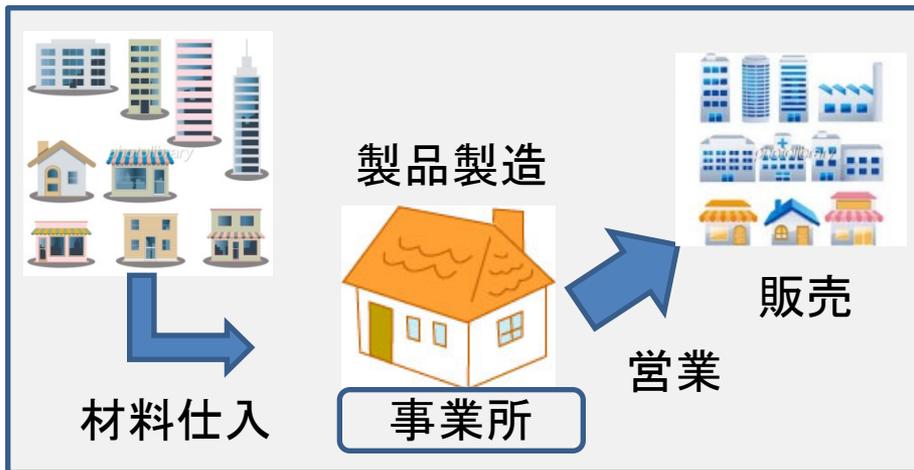
【鳥取大学との連携による商品開発】

Point

- 熊本県産の馬油を使用した化粧品（石けん・クリーム・オイル）の製造および販売を行っている。

化粧品製造販売許可番号 43COX10016

化粧品製造許可番号 43CZ200017



事業実施のきっかけ、経緯

- 下請作業等を中心に作業を行っていたが、企業の動向に左右されて売上にバラツキがあった。そのため、工賃の向上に取り組めていなかった。
- 観光地でもある阿蘇の地域柄を利用した商品の開発を行い、自主生産できるものに着手するが他社との商品の差別化をしないと市場に認めてもらえない。
- 鳥取大学と提携し、熱を加えず馬油を抽出することができた。（特許技術）
- その馬油を使用した製品の開発に繋げることができた。

事業概要

就労継続支援事業B型

- 利用者が製造に携わることで体力・作業手順・責任感を養う場の提供を行うことができる。
- 製造から梱包まで一連の作業を行う事で商品の流れの習得を行うことができる。

成果

- 利用者の工賃向上につなげる事ができた。

平成20年度平均工賃	10,600円
平成21年度平均工賃	14,000円
平成23年度平均工賃	16,600円
平成25年度平均工賃	20,000円
- 障がいを持たれた方々が手掛けた商品を社会及び地域に流通させることで社会の一員としての自覚を養うこと及び販売数が気になったりと製造においての責任感や意識向上が見受けられるようになった。

今後の展望

- 全国展開に向け、インターネット販売を開設でさらなる販路の拡大
- 手作業で行っているため、大量生産に対応ができていない。今後は、生産管理を行い、基盤整備に努める。

作業風景



本事例の事業所紹介

社会福祉法人 やまなみ会
阿蘇くんわの里

〒869-2225
熊本県阿蘇市黒川431

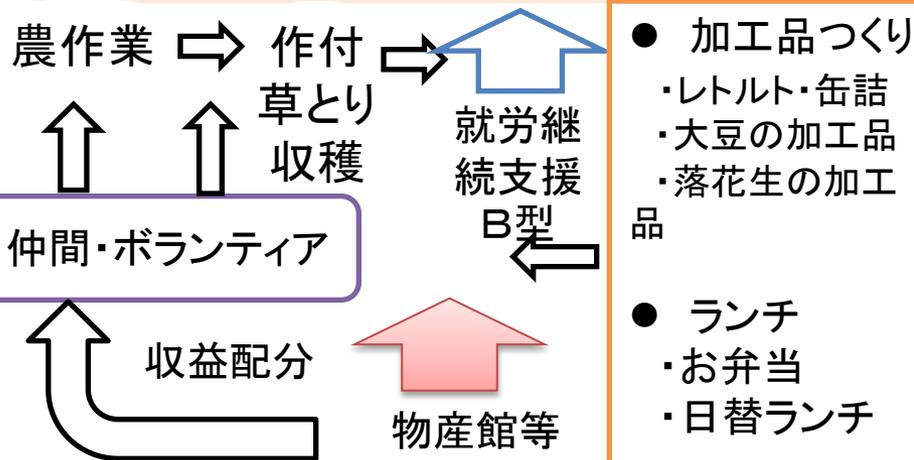
TEL 0967-34-1100 FAX 0967-34-1106

カテゴリ【1】 農産との連携

【農業を主体とした農産加工食品作り・及びランチによる就労訓練】

Point

- 資金がいらず、すぐできる仕事→農業だった。
- スタッフに農地。備品（トラクター）などを持っていた。
- 付加価値をつけて販売（無肥料無農薬による農産加工品）
- 給食づくり訓練によるランチ販売



事業概要

- 農産物の生産、加工、販売
例（落花生和えの素、ご汁の素、羊かん、味噌など）
- レトルト事業
カレー：熊本県の肉にこだわったカレー4種
（肥王豚、阿蘇赤牛、馬肉、大阿蘇どり）
缶詰：のっぺ汁、おでん、馬スジこんにゃく等
- ランチ
日替わりランチや弁当など販売
（300円） （350円）

成果

- 利用者の調理訓練をもとにランチ提供にたずさわれるようになってきた。早さは個人差があるが食品作りに関われるようになっている。一般就労にむけた実践的な訓練を継続する
- 農作業におけるボランティアの広がりがでてきている。結果落花生・大豆・小豆・さつまいもの他にも胡麻等も作付でき、加工品の幅も膨らむ
- 缶詰の種類が幅広くできそうで、今試行錯誤の段階である。高齢者むけの缶詰を地域住民とのコミュニティで開発中

今後の展望

- 障がい者の工賃アップにむけてレトルト事業をもっと展開していきたいと思う。高齢化社会になり一人暮らしの方むけのレトルト食品の開発を進めていきたいと思っている
- 無肥料無農薬の農作物に付加価値をつけ、購入者の拡大をはかりたい。

事業実施のきっかけ、経緯

- スタッフの農地や耕作放棄地が村内にあり、ボランティアもつのがやすく、農業が1番資金がいらぬ仕事であると同時に、6次産業にもつながると思った。（生産→加工→販売）
- 障がいをもっている仲間たちが気軽に参加でき、ボランティアの方との交流も生まれる。



事業所より一言

毎日笑いの絶えない作業所です。たんぽぽハウスには様々な障がいのある方や引きこもりの方、アルコール依存症の方、生活困窮者・生活保護の方などが利用されています。ボランティアの方も交わり「ごちゃまぜ」な家庭的な作業所です。ぜひ、一度たんぽぽハウスにお越しください

本事例の事業所紹介

NPO法人 にしはらたんぽぽハウス



〒861-2402
熊本県阿蘇郡西原村小森3264

TEL096-279-3666 FAX 096-279-3666

カテゴリ【4】企業との連携

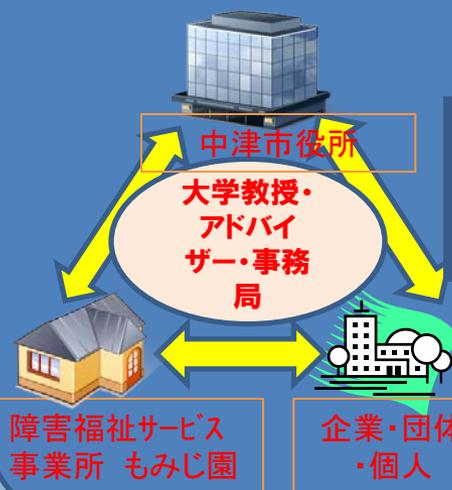
【6次産業との連携による工賃の向上】

Point



- 各種企業・団体との情報交換、交流
- アドバイザー・バイヤーによる商品の開発
- 販売機会の確保と拡大

なかつ6次産業 創生推進事業



□林産加工品開 発研究会

・耶馬溪産の杉・桧を
使った商品の開発等

□農林水産物加 工品部会

・地域産物である製
品を商品化して、付
加価値を付けた商品
を開発、情報発信とと
もに販売の促進を図
る

□ネットショッピ ングモール販売

・なかつ燦燦市場

事業概要

- 参加者 — 市中の各種団体・企業、中津市
- 目的 — 農地・林野の保全、地域の振興と活性化
- 活動 —
 - ・ワークショップによる商品開発、及び既存商品ブラッシュアップ事業
 - ・商品の販売促進を図るための販売チャンネルの整備事業、
 - ・地域事業者及び起業家の支援事業を実施

成果

- 各種団体や企業との交流や情報交換
- アドバイザーやバイヤー等専門家のアドバイスと商品開発。
- 販路の拡大を行うことができた。
- 設備整備に係る補助制度の活用
- ブランドの確立(商標登録の予定)

今後の展望

これからは、参加団体や企業と連携して特産品の開発を行いたいと思います。そのためにも、当該事業に関連した補助金を活用して施設の整備を行いたい。

事業実施のきっかけ、経緯

- 市報で事業が開始されることを知り、説明会に参加した。事務局発足後ワーキング会議に加入し活動を始めた。

木製オブジェの 焼印作業



アドバイザーを交え包装紙図柄等の選定



事業所より一言

本園では、「農・福連携」や「6次産業化」は利用者の皆さんの働く場の確保と工賃の保障に欠かせなくなっています。
これからも、地域や人を巻き込んで企業に負けない物を作って・売っていきたいと思います。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人下毛もみじ会
指定障害福祉サービス事業所
もみじ園(B型、生活介護)

〒871-0401大分県中津市耶馬溪町大字平田1479-1
TEL 0979-54-3490 FAX 0979-54-3491

六本木ヒルズに 中津の杉加工品

中津市の耶馬溪の杉材で作ったクリスマス飾りが、東京・六本木ヒルズの一角にある高級ホテル「グランドハイアット東京」のロビーに飾られる。中津市と地場企業などをつくる「なかつ6次産業創生推進協議会」による林業再生の試みの一つ。「中津の木材」とともに7月の豪雨災害からの復興をアピールする。

林業再生の試み

製作にあたったのは協議会のワークショップ・林産加工品開発研究会。耶馬溪で1500杉の山を管理する久恒森林が素材を提供し、山国工芸社がツリーをかたどったオブジェ（高さ60センチ）やオーナメント用の丸い板（直径9センチ）に加工して、指定障害福祉サービス事業所「もみじ園」に渡した。
「もみじ園」では5、6日、園の利用者3人が丸い板210個に、電気こてを使って星やヒラギの葉、雪の結晶の文



「ヒルズでの展示が楽しみ」と杉の丸い板にもようをつける中津市耶馬溪町

24.11.18 朝日新聞 大分版

様を焼き付けた。ホテルでは15日から12月25日まで飾られる。利用者らは「ホテルでこんなふうに飾られるのか楽しませてみたい」と話した。
研究会は低迷する林業の活性化のため、生産から加工、販売までを連携して扱う「6次産業」の取り組みとして、共同で商品開発している。ホテルでの展示は東京のアドバイザーの紹介で実現した。
(上野正彦)

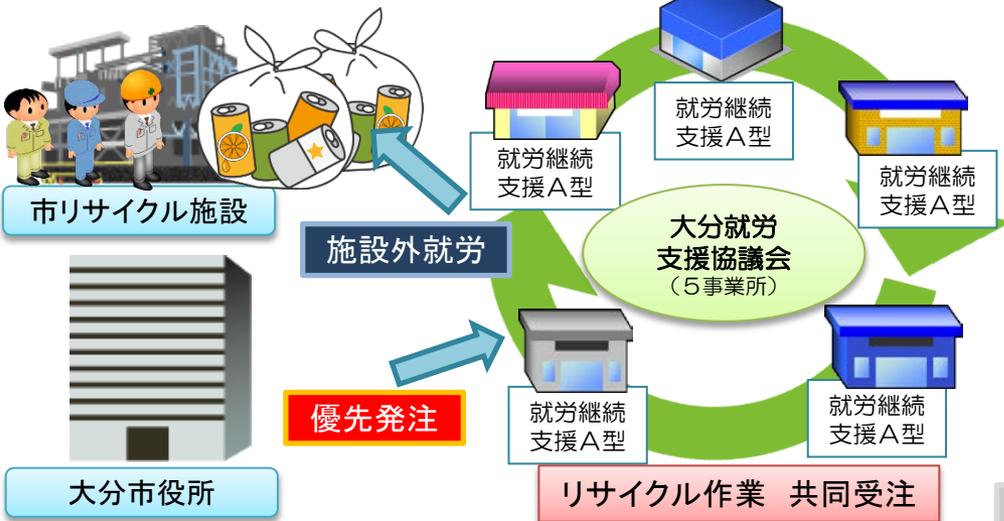
優先
調達

再資
源化

就労継続支援A型が協力して共同受注。リサイクルの官公需（優先調達）を実現。

Point

- 大分市からのリサイクル優先発注事例
- 就労継続A型が協力して共同受注
- 施設外就労による障害者の働く場の確保



本事例の背景

- 大分市では、障害者の就労の場の確保のため、官公需の促進に努めている（平成25年4月に施行された優先調達推進法により、更に官公需の重要性が増している）。
- 昭和58年当時、知的障害児は養護学校を卒業した後、就職する職場がほとんどなく、重度の知的障害者でも働くことのできる施設の設立を願う人々が集まり、昭和60年1月に通所授産施設が開設。10周年を契機として企業に就労することが困難な知的障害者の就労の場として福祉工場が開所された。

本事例おける、それぞれの役割

大分市障害者就労支援協議会

- 大分市内の5カ所の福祉法人（福祉工場松岡・ひまわりの家・やまびこ広場・シンフォニー・杉の木）により、市からリサイクルセンターの共同委託を受ける。
- 5施設で大分市障害者就労支援協議会を結成し、共通のマニュアル等を作成し、共同管理が可能な条件を整備して知的障害者の就労の場作りに貢献する。
- 共同することにより、リサイクルセンターの施設外就労による、ビン・缶・ペットボトル等の手選別業務の一連の作業のすべてを委託できるようにする。

参画するA型事業所

- 施設外就労の人材を確保し、市からの請負契約による、ビン・缶の選別等のリサイクル作業を責任を持って行う（共同で行うため、他の事業所と協力しながら支援を行う）。

本事例における効果

- 協議会全体で賃金や働く場の確保について、安定的な供給が図られる。
- 重度の知的障害者も、多様な作業に取り組める。

「大分市障害者市雄郎支援協議会」の事業所紹介



社会福祉法人 シンフォニー
〒870-0862

大分県大分市中尾603

TEL 097-586-5577

FAX 097-586-5578

カテゴリ【5】特別支援学校、関係機関との連携

【特別支援学校、他事業、相談支援事業所、自治体等との連携による 利用者の進路選定のための相談支援の推進】

Point

- 農園作業、EMボカシ、浴用ほかほかよもぎ、食品加工等 生産活動
および見学・体験実習生の受け入れ
- 当事業所の収穫祭、地域のイベント参加等による交流
- 体験実習生や地域、関係団体等との交流連携による利用者の
進路選定等 相談支援の推進



就労継続支援

B型事業所

農園作業、製造作業等の
体験実習やイベント参加
ボランティアの受け入れ

・特別支援学校
・他施設・事業所等

・自治体・地域
・関係団体

・相談支援事業所

事業実施のきっかけ、経緯

- 当事業所は市街地より約20kmの自然環境に恵まれた山間地に位置し、従来知的障がい者主体の 農作業、入浴用ほかほかよもぎ、ウコン等の生産を中心とした通所授産施設であったが、3障がい統一後は利用者も多様化傾向にあり、生産及び販売活動、進路選定、利用者の受け入れ等についても他事業所や関係機関との交流連携を深め、お互いの特徴や役割を知り、利用者一人一人の将来に向けてのよりよい 進路選定等相談支援に活用する必要がある

事業概要

- 農作業（野菜づくり）製造作業（浴用ほかほかよもぎ、ウコン粉、EMボカシ、食品加工）他を行い、特別支援学校、入所支援施設、精神科病院、在宅障がい者等の見学及び実習生を受け入れている
当事業所の収穫祭や地域のイベント参加により交流連携を推進し、生産物の販売やPRをおこなっている

成果

- 見学や体験実習生の受け入れや、特別支援学校、各事業所、地域、関係機関等のイベント参加交流を通してお互いの特徴や役割を共有することができ、連携強化（福祉のネットワーク化）やPR効果が高まり、生產品の販売活動、利用者の進路選定や進路相談のための選択肢の増大が期待できる

今後の展望

- 当事業所の恵まれた自然環境を活かし今後とも農園作業等の見学、体験実習生の受け入れ、地域、他事業所、関係機関との連携強化を図り生産、販売活動の向上、利用者の進路相談支援を促進したい



農園作業 たい肥まき



収穫感謝 よもぎ祭り



地域のお祭り 参加



かぼちゃ収穫



ボカシ・ウコン・よもぎ入浴剤



ボカシ作り



たまねぎ出荷準備

社会福祉法人 中心の里
障害福祉サービス事業所 中心の里作業所

〒883-1111
宮崎県日向市美々津町5627番地98

TEL(0982)58-0157
FAX(0982)58-0176

事業所より一言



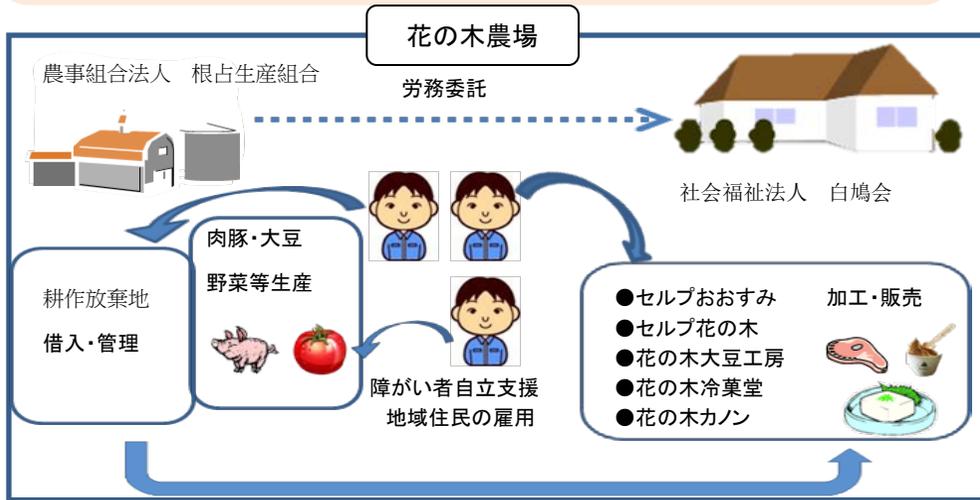
• 殊に精神障がい者、知的障がい者にとって恵まれた大自然の中での農園作業、体験実習等は最適の選択肢の一つと考えています

カテゴリ【1】農業との連携

【農事組合法人との連携による地域貢献】

Point

- 障がい者の就労・訓練の機会の確保
- 地域における雇用の創出
- 耕作放棄地等の農地管理への寄与



事業実施のきっかけ、経緯

過疎化・高齢化に悩む南大隅においては、耕作放棄地が数多くある。我々はこの耕作放棄地を利用し地域活性化を図ることで、障がい者の自立を支援し、また高齢者・地域住民の雇用促進や、農家の後継者不足を解決できると考える。しかし社会福祉法人白鳩会が設立された昭和48年当初は、社会福祉法人は寄付金でしか土地を買入れることができなかった。障がい者の自立促進や工賃アップのために耕地面積を拡大して、企業的農業経営をするためには、やはり農事組合法人の存在が必要である。また労務委託関係を結ぶことで、障がい者の自立を促進することができ、社会福祉法人と農事組合法人が安定した関係性を築くことができるため現在の事業に至った。

事業概要

【社会福祉法人 白鳩会】

- ・障がい者の生活の場を提供（入所施設・グループホーム）
- ・根占生産組合より労務委託を受け、商品の加工・販売を通じた障がい者の就労支援・自立訓練の実施
- ・地域おこしのためのイベント実施

【農事組合法人 根占生産組合】

- ・障がい者の就労の場の提供
- ・耕作放棄地の借入・管理による土地の整備
- ・農家の担い手として地域住民の雇用促進

成果

- 農業用求人サイトの利用により、県外からの就農希望者がここ1年で増大している。（平成25年に3名雇用）
- 耕作放棄地借入・管理により、地域における農地管理に寄与している。
- 障がい者の自立を促進し社会福祉法人白鳩会の就労部門収入がここ3年で増加した。
- 地域住民と障がい者が共に働くことにより、自然な形で交流できている。

今後の展望

- 今後は農業と福祉だけではなく、観光を交えて人が集う「花の木農場」づくりに力を注ぐ。（モニュメントの設置やイベント開催継続予定）
- 障がい者や地域住民の雇用の増大を図り、ノーマライゼーションを促進する。

社会福祉法人白鳩会 建物風景



セルプ花の木外観(南大隅町)



花の木カノン外観(鹿児島市)

就労・訓練等風景



餃子の製造(セルプ花の木)



職員とともに働く利用者(花の木牧場)

花の木農場商品の一部



お茶(セルプおすすめ)



精肉・ハム・惣菜(セルプ花の木)



豆腐(花の木大豆工房)



ジェラート(花の木冷菓堂)



【農事組合法人 根占生産組合】

〒893-2501 鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北9445-2

【社会福祉法人 白鳩会】

〒893-2501 鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北2105 TEL:0994-24-2517

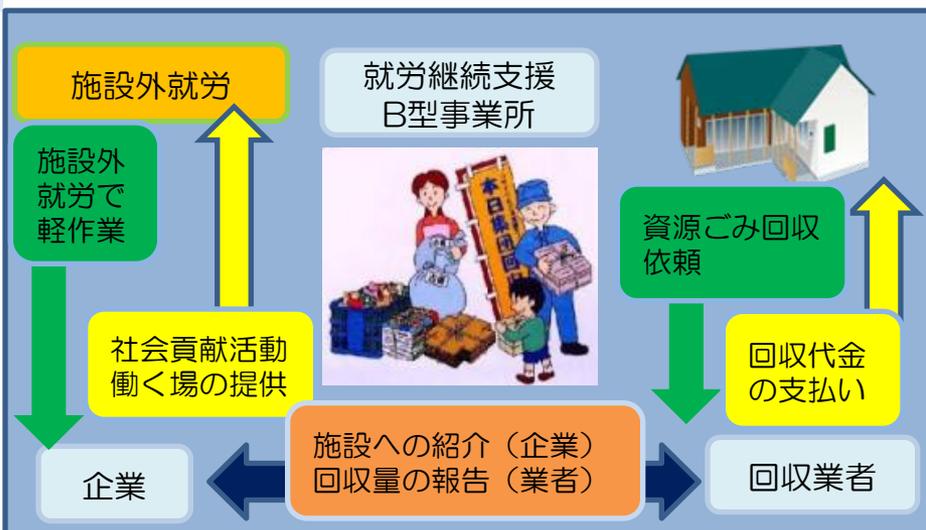
FAX:0994-24-3711

URL: <http://hananokifarm.jp/>

【 地元企業と連携した施設外就労の活用 】

Point

- 施設外就労の活用
- 地域貢献
- 一般就労へ向けた訓練機会の創出



事業実施のきっかけ、経緯

- 資源ごみを回収することによって、資源の有効活用と環境保全の促進を進めることを目的とし、スーパーを運営する株式会社タイヨーが社会貢献活動の一環として場所を提供。
- 企業側は社会貢献、環境保全の両面からイメージアップが図られるとともに、資源ごみ持ち込みの代替として渡す割引券の利用による集客効果を期待している。
- 施設側は、利用者の社会体験や交流機会の創出、更に回収された資源ごみの代金を収益に充てることで工賃増に繋がる。

事業概要

- 施設から車で15分程度の近隣3店舗で事業を展開し、活動時間は毎週火、水、金曜日の9時半～16時。
- 資源ごみを持ち込んだお客様に一人1枚、当日のみ使用できるグリーン券（対象一品10%割引）を手渡す。
- 接客や分別等すべてを担い、資源ごみの回収代金は産業廃棄物回収業者から施設へ支払われる。

成果

- 施設外就労を活用し、利用者の工賃増へ繋がった。
- お客様との直接的なコミュニケーションが刺激となり、挨拶や言葉遣いへの意識が高まる利用者がいた。
- 活動を通して御家族もエコに対する理解が深まり、資源ごみ回収量の増加へと繋がっている。
- 施設内にある他事業所（就労移行、自立訓練、生活介護）の訓練の場としても活用できる。

今後の展望

- 資源ごみ回収活動の場を店舗から地域へも拡大し、更なる収益増＝利用者の工賃増を図り、利用者の仕事に対するモチベーションアップに繋げていきたい。
- お客様とふれあえる貴重な機会として捉え、更なるコミュニケーション能力の向上へと繋げていきたい。

ワークショップはやと 就労継続支援B型 施設外就労 風景



ほっぴいエコプラザ単人

無料 資源回収のご案内
ご自宅で不要品の回収に当たっています。

Reduce Reuse Recycle しよう!

毎週 **エコプラザ開催!**
水曜日 9:30~16:00

開催場所 **ガンキュー単人店**
(ほくろコーナールーム)

回収品目
紙類、プラスチック、ガラス、金属、家電、家具、衣類、布類、その他
回収不可品目
危険物、可燃物、燃焼物、資源物、その他

回収品も再利用可能な場合、**「エコプラザグリーン券」**を発行いたします。

事業所より一言

今後も利用者が生き生きと活動し、活躍できる
機会の創出を目指しつつ、更に地域連携の輪が
広がっていくように職員一丸となって努めていき
たいと思います。

本事例の事業所紹介



社会福祉法人 真奉会
障害者支援センターワークショップはやと
〒899-5116
鹿児島県霧島市隼人町内2068番地
TEL0995-44-7111 FAX0995-44-7112

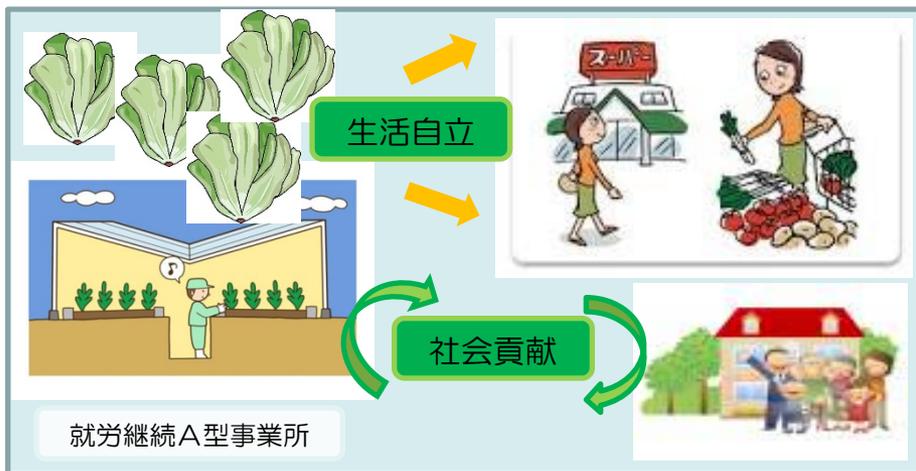


カテゴリ【1】農業との連携

【障害のあるひとの生活自立を目指すと共に、地域の食生活のニーズに対応した商品提供】

Point

- 就労継続A型事業による経済的自立を提供
- 作業性・安全性を配慮したハウスにおける水耕栽培
- 地域の食生活に安心・安全を提供する商品づくり



事業実施のきっかけ、経緯

● 福祉的就労から一般就労に結びつけるため、みやこ福祉会としてジョブコーチを配置して就労支援を行い、開所9年で施設利用者を含む29名を一般就労に結びつける事が出来た。その後も施設利用者の地域に出働きたいという要望に対応するため活動を続けてきたが、近年は実習は受け入れて職場体験はさせて貰う事はできるが、一般就労への移行は大変厳しいのが現実であった。作業能力はあるものの、一般企業に就労出来ない人達を雇用し、就労継続支援事業A型の設置運営する事が急務であると考え、22年4月に「野菜ランドみやこ」を立ち上げ障害者15名を採用し、一般就労に結びつけることが出来た。

事業概要

- 地域で働く事を通して、障害のある人が社会的自立ができる環境を提供。
- 障害のある人が、安全に働けると同時に通年に働ける仕事作りを目指し、ハウス栽培による生食用のサラダほうれん草の水耕栽培に取り組む。
- 地域の食の安心・安全というニーズを実現することで、働く事を通して地域社会に貢献できる仕組みづくりを実現。

成果

- 沖縄県では生産が難しいと言われていた夏期の葉菜類が特殊な水耕栽培システムで周年安定した栽培が可能になり、毎日収穫出荷ができ15名の障害者が継続して働く事が出来る。
- 沖縄県では、夏場には葉野菜の供給が途絶えるため葉菜類の価格の上昇が大いに期待できる。

今後の展望

- 野菜ランドみやこは生産技術に伴い生産量は安定し、販路も確立してきている。今後は、大玉トマト栽培を特殊な栽培システムを活用して、従来の栽培では10アールあたり約10トン~20トン/年の収穫量ですが、予定している栽培システムでは約30トン~35トン/年を見込んでいる。トマトを周年栽培し、出荷・販売する事で障害者の給料アップに繋げていきたい。



事業所より一言

●野菜ランドみやこでは、働く事だけではなく明るく楽しい笑顔をもっとに生き活きとした人生を歩んで行く事に努めます。去年3名のメンバーが自動車の免許を取得し、休日などドライブを楽しみ充実した日々を過ごしているメンバーがいます。ヤッター最高！！

本事例の事業所紹介

社会福祉法人 みやこ福祉会
就労継続支援A型事業所 野菜ランドみやこ

〒906-0006

沖縄県宮古島市西仲宗根741番地の1

TEL :0980-73-1717 FAX :0980-73-8005



(事業所写真)